

九州南部の仕入れ強化

細島・志布志からの輸出を拡大

瀬崎林業

瀬崎林業(大坂市)瀬崎民治社長は、国産材原木輸出事業で九州南部地域での原木仕入れ体制を強化する。日向出張所(鹿児島日向市)の人員を拡充して4月1日から日向営業所とした。同社の原木輸出の主力港である細島港(同)、また志布志港(鹿児島県志布志市)周辺地域の地元事業者との連携を強化することによって、両港からの輸出货量を引き上げ、全体の輸出货量増加も目指す。

同社の1～3月の中、原木市場からの集荷分は半分ずつとなる。九州地域では製材工場は3万5889立方メートル、九州地域は現在の佐伯出張所(大分県佐伯市)を6月末で閉鎖し、今後は北九州営業所(北九州市)と日向営業所(北九州市)と日向営業所との連携強化が予想されるなかで、輸出港として複数の港を使用することには、集荷リスクの分散にも寄与する。現在、細島港と志布志港からの出荷分は15万立方メートルと2018年実績の12万3001立方メートルからの引き上げは、原木集荷比率は35%程度を出荷した細島港では、今年3月末

に16号岸壁の整備が決まってきた。今後、原木輸出に向けた港湾整備が進められる。行政や、瀬崎林業とも連携する荷役会社の日向運(日向市)などの備に16号岸壁の整備が決まってきた。今後、原木輸出に向けた港湾整備が進められる。行政や、瀬崎林業とも連携する荷役会社の日向運(日向市)などの備

き掛けて表現し、荷役作業の効率化などが期待される。一方、同社の輸出货量の約8割を占める中国の、米国の貿易摩擦が生じており、日本の半から輸出環境に変化がもたらされており、日本からの輸出貨品に求められる。中国国産材は「中国国産材」として扱われる。中国国産材は「中国国産材」として扱われる。